

三宅島の噴火活動の レーダー観測結果（速報）

私たちの研究所では2000年3月に完成したマルチパラメータレーダー（写真1、詳しくは防災科研ニュースNo.132を参考にしてください）を三宅島の北西約40kmに位置する式根島に設置して三宅島雄山^{おやま}の噴火活動の監視を行ってきました。目的は大規模な噴火があったときに噴石・噴煙の広がりや高さの情報を、防災関係者にいち早く提供することです。このため、観測から得られたレーダー情報を研究所のホームページに掲載して公開してきました。幸い、監視を開始してから火口の外に噴石を降らせるような大規模な噴火は起きていませんが、小規模な噴火活動に関係すると考えられる現象がいくつか捉えられています（例えば写真2と図1）。

レーダーによる噴火活動の監視は遠隔地から安全に行えること、目視観測ができない夜間でもできるという利点がありますが、小さな粒径の噴煙は見えない、噴出物と雨との区別をどうす

るかといった問題があります。これまで得られたデータの解析を通じて、火山噴火の監視への気象レーダーの有効な利用方法についての研究を進めています。もっと詳しいことを知りたい方は次のホームページにアクセスしてみてください。顕著な例についてのアニメーションなどを見ることができます。

<http://www.bosai-radar.org/>

（問い合わせ先：気圏・水圏地球科学
技術研究部 真木雅之）



写真2 2000年10月9日16時00分の三宅島雄山の噴煙
（式根島レーダーサイトから撮影）



写真1 式根島に設置したマルチパラメータレーダー

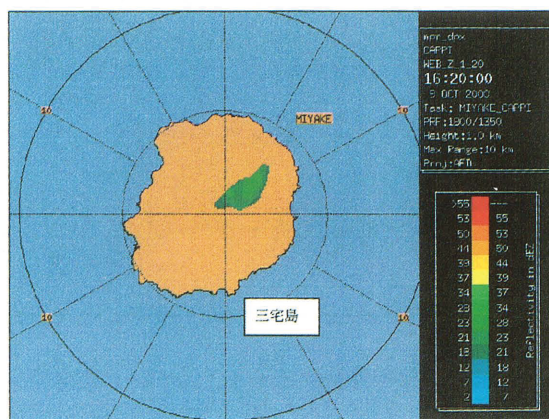


図1 2000年10月9日16時20分の三宅島雄山の噴煙のレーダー画像。島のほぼ中央に緑色のエコーが見られます。このエコーは約30分程で消滅しました。小規模ですが、噴石を伴うような噴火が起きていたと考えられます。